

1. 教育の責任

・国際看護学部の教育理念である、地球を多様な地域と捉え、そこに暮らす様々な人々の価値観や文化、生活様式、医療、看護などの多様性への理解を深め、多様性を受容し、其々の文化に沿った看護が実践できる看護教育の一翼を担っている。

2. 教育の理念

・日本のグローバル化に対応できる看護師を養成するために、日本人と共に暮らす多様な人々がもつ背景を理解し、適切な医療や看護が提供できるよう支援や看護ができる看護師を養成している。そのため、既にグローバル社会となっている阪神地区において、定住外国人や訪日外国人、在外日本人に加えて、移民、難民問題、超少子高齢化社会や低所得労働者層の健康課題についても理解を深める教育と実習を展開している。

3. 教育の方法

・講義では地球を一つの多様な地域としてとらえる視座を培う講義内容とし、演習ではグローバルコミュニケーション力を培うためネイティブ教員による少人数制の英語コミュニケーションクラスを設けている。また、国際看護演習では医療英語を用いた外来での対応や診療の介助、入院清潔の説明が行える演習を実施している。くわえて、やさしい日本語を用いた資料作成や説明の方法についても学修する。実習では、多様性がもつ文化的背景や価値観をより理解する機会とする実習としているために、地域における定住外国人支援センターや多言語センターまたは JICA や検疫所など、日本における医療や看護、感染症対策の実際と課題について、座学での学びを更に深める機会としている。

・演習や実習では対面、非対面の併用として、海外などの遠隔地と連携しながら現地のリアルタイムで情報が得られる工夫を行っている。中でも演習では、海外での看護職として勤務した経験のある教員や多国籍の教員により、医療英語を用いた演習を行い、卒業後外来での対応や翻訳機、優しい日本語、イラストなど、多種多様なコミュニケーションツールを駆使して対象のコードを把握する知識や技術を学修できる内容としている。国際看護学実習Ⅲは全員 MOU を締結した看護系大学での臨地実習を行うものであるが、現在はコロナ禍であるため、国内と海外の実習可能は地域に大別し、国内実習では諸外国の看護系大学との遠隔による交流会や海外医療支援の具体的なデモンストレーションを取り入れた実習展開とする工夫を行っている。

4. 教育の成果

・学生は日本人以外の定住外国人や訪日外国人または在外日本人の医療や看護の実態を理解し、課題への取り組みについても考察を深めている。また、MOU を締結している看護系大学の学生との交流なども活発に行い、諸外国の現状や今後の日本の医療や看護での取り組みについても意見交換を行っている。英語民間試験も受験し、英語の専門的な医学用語の習得や、実際の臨床で使用できる英語を用いた会話への取り組みが促されている。この他、実習が終了しても、施設によってはボランティアで関わるなど交流が継続し、地域に暮らす人々を看護する必要性の理解し、実践している学生達も大勢育っている。

5. 改善への努力と今後の目標

・医療英語を学ぶ国際看護演習では、1人の教員が10人程度を受け持つロールプレイや GW を実施することで、臨床で使用できる英会話をアウトプットすることができるようになってきている。今後は、より一層、学生からの発話の機会を増やすことで、スピーキング力を促す。国際看護学実習については、コロナ禍の沈静がみえたら、MOU 校との学生交流を活発化させていき、国際人としてのマナーを学ぶ機会とする。

【添付資料】